

平成28年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団 体	個 人	主 な 功 績
山形県	トクテイヒエイリカドウホウジン 特定非営利活動法人 サガエ グラウンドワーク寒河江		<ul style="list-style-type: none"> ・当該団体は、地域住民や企業と連携して地域環境改善のための様々な活動を行っている。特に環境保全に関するものとしては、市内の河川において市民に親しまれる河川環境の整備及び蛍の里づくりの活動を10年間にわたっておこなっている。 ・また、その活動を通じ、地域の子供たちの環境学習にも取り組んでおり、地元の河川に愛着を持ち、環境を保全する活動につなげている。
茨城県		モギ カズオ 茂木 一男	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後、水質保全の関係会社に入社し、その間知識・技術を習得した。平成3年に土木・建築・管工事・浄化槽施工会社を設立し、長年にわたり優良工事の促進と施工技術の向上に努めている。 ・また、平成26年2月より茨城県から水質保全監視員の委嘱を受け、浄化槽の設置及び維持管理に関する指導及び助言、法定検査受検の指導、合併処理浄化槽の普及等を行い、公共用水域の水質汚濁の防止及び生活環境の保全に貢献している。 ・一方、霞ヶ浦北浦地域清掃大作戦を年に2回、環境美化推進運動事業を年に1回実施しており、北浦湖岸、県道鉾田市梶山地区内のゴミ、空き缶の回収等の奉仕作業を平成元年から現在まで取り組んでいる。鉾田市梶山地区集落センター及び鉾田市梶山地区市内道の除草作業についても平成元年から現在まで取り組んでいる。さらに鉾田川流域における流出水対策推進協議会には、平成25年から参加している。 ・このような功績が認められ、平成21年から当協会の理事、平成25年から総務財委員会の委員長に推挙され、協会の運営に貢献するとともに、公衆衛生の向上及び水環境保全の重要性を訴えるなど、市民の快適な生活のために尽力している。
千葉県	トクテイヒエイリカドウホウジン 特定非営利活動法人 トミサト NPO富里のホタル		<ul style="list-style-type: none"> ・高崎川源流域のヘイケボタル自然発生地「天神谷津」で、以下のような水環境整備を行っている。 <ol style="list-style-type: none"> (1)定期的な田んぼや畔の草刈り、畔や濠の修復。 (2)平成26年度から、休耕田の畔や濠の復元。 (3)平成25年度から、杉や竹等を伐採し、落葉広葉樹を植樹することによる雑木林の再生(保全力向上)。 ・ホタル観賞や自然観察・稲作体験等の各種行事を通じて、谷津の役割や水環境保全の大切さについて啓発活動を行っている。 ・谷津での定期的な水質調査と田んぼの水質浄化モニタリング、ホタルやアカガエル等の希少動物調査を行っている。
東京都	イ カシラ カイ 井の頭かんさつ会		<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民を対象に、井の頭恩賜公園及び玉川上水周辺で、毎月1回の自然観察会を開催している。その活動を通じて、子どもからお年寄りまで幅広い参加者に楽しみながら自然の大切さを伝えている。平成25年に100回目の観察会を迎えたが、『かいぼり後の井の頭池の検証』や『水鳥の観察』など毎回、様々なテーマを設けて活動を続けている。 ・水環境保全では、井の頭池での「餌やり自粛キャンペーン活動」に力を入れ、公園管理者や他の市民団体への協力を働きかけ、主体的に池の水質浄化と生物への良好な自然環境整備に向けた取組を継続的に実施している。 ・また、外来生物問題への取組みとして、週2回実施している保全活動において池を監視し、外来生物防除の必要性をWEBサイト等で発信してきたほか、NPOが主催する外来種駆除イベントにもオブザーバーとして参加している。 ・これらの活動と井の頭池のかいぼりは、相乗効果によって水草が生えるようになり、過剰なリンの吸収や溶存酸素が増加するなど水質が改善し、水の透明度が上がる結果となった。 ・最近では、平成29年に100周年を迎える井の頭恩賜公園のあり方を、地域と連携して考え行動するため、関係団体、行政が参加した「井の頭恩賜公園100年実行委員会」において、「よみがえれ！！井の頭池！」運動に参加し、環境保全に取り組んでいる。平成29年1月には、三鷹市公会堂にて行う、かいぼり報告会(後援予定:東京都、武蔵野市、三鷹市)に参加する予定である。
富山県		タグチ シゲル 田口 茂	<ul style="list-style-type: none"> ・平成6年に就任以来、22年にわたり富山県環境審議会水環境専門部会の専門員を務め、水質環境に関する有識者として、富山県の水環境保全行政の推進に貢献している。 ・富山県を対象とした水質環境保全に関する行政計画「富山県水質環境計画(クリーンウォーター計画)」の3回の改定、「公共用水域及び地下水の水質測定計画」の策定に貢献している。 ・独創性にあふれる優れた分析法を開発、開発したリンの分析法を用いて富山湾の水質汚濁問題の解明に取り組み、富山県の水環境保全に貢献した。

推薦者	団 体	個 人	主 な 功 績
富山県	タカオカシモアソウシマチ クジチカイ 高岡市下麻生伸町4区自治会		<ul style="list-style-type: none"> ・高岡市中田地区を流れる清水川(しょうずがわ)は住宅団地内を流れる川で、長年、ゴミがたまり、悪臭を伴う汚れた川であったが、住民の清掃活動等の努力により、多くの水生生物が棲み、子どもたちが川に入って自由に遊べる清流に蘇った。 ・現在は、清水川の川底や土手等の清掃活動を年3回以上行うとともに、平成22年からは、子どもや保護者等を対象とした生物調査のイベント(生息生物観察ラリー・観察会)や「レッドデータブックとやま」で「絶滅危惧Ⅱ類」に指定された「トミヨ」の巣作り活動として水草「バイカ藻」等の植栽を継続して行っており、見学者を受け入れ、説明も実施している。 ・絶滅危惧種「トミヨ」等の保護活動として、自治会から高岡市や県に川の改修を要望、平成24年から工事が実施された。現在は、子どもたちが安全に生き物を観察するためのテラス(川中に玉石を敷き詰めた足場)が設置され、水と直接ふれあうことのできる親水河川として整備されている。
愛知県		イジマ サチコ 飯島 幸子	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年4月に生活排水クリーン推進員に着任し、以降11年半にわたり地域の生活排水対策に係る啓発活動において中心的な役割を担っている。 ・自治区事務所や自宅等にて、地域住民や他の地区の生活排水クリーン推進員と協働して、廃食用油を使用した石けんづくりを自ら実施する他、地域住民を対象とした石けんづくりの体験講座を実施するなど、廃食用油を使用した石けんの普及活動に取り組んでいる。また、廃食用油と凝固剤を使用したろうそくづくりを実施するなど、新たな廃食用油の利用方法の検討にも取り組んでいる。 ・さらに、製作した石けんを水切りネットや啓発リーフレットと合わせて地域の清掃活動(ゴミゼロ運動、クリーン・アップ・ザ・ワールド・イン大府等)の際に配布し、家庭でできる生活排水対策の啓発を実施している。 ・この他にも、市主催のイベントの機会を活用して、洗剤を必要としないアクリルたわしを来場者と一緒に製作するなど、実践活動を通じて生活排水対策に係る啓発に大きく貢献している。
愛知県		スギモト ヨシオ 杉本 由夫	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年に神奈川日立化成住機(株)に入社以来、一貫して汚水処理に関する知識や技術の習得に努めるとともに、浄化槽管理者に対する単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換や浄化槽の適正な維持管理の普及を推進し、更には浄化槽設備士に対する浄化槽の適正な施工の普及等に務め、水質浄化に尽力した。 ・また、平成23年に愛知県浄化槽協会の理事に就任後は卓越した見識で協会の運営と発展に貢献し、同年から同協会の総務財政企画委員会委員長として、テレビCM(H23-25)やラジオCM(H27、28)、私鉄車内の中吊り広告(H26)を活用した啓発活動を企画・実行するとともに、浄化槽関係者の技術の向上を目指した浄化槽技術研修会を毎年開催する等、合併浄化槽の普及と浄化槽の適正な維持管理の推進に、より一層尽力し、水環境の保全に大きく寄与した。
滋賀県		ヨコヤマ オサム 横山 修	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行政の黎明期であった昭和45年に県庁入庁以来37年間一貫して環境行政に従事し、環境先進県滋賀の礎を築かれた。そのうち、水質・土壌環境行政の業務に29年間携わられた。 ・滋賀県庁在職中は、本庁や出先機関といった様々な立場において、水環境行政を始めとした環境行政全般と各分野にわたり精通され、常に広い視野から滋賀県の環境行政の推進に尽力された。 ・特に、昭和47年には滋賀県公害防止条例の全面改正に携われ、現在の滋賀県の環境行政の根幹を築かれた。また、平成8年には滋賀県生活排水対策の推進に関する条例(みずすまし条例)の制定に携われ、琵琶湖の富栄養化に対して生活排水の適正処理を推進されるなど、在職中の功績は顕著である。 ・さらに、平成16年には滋賀県の琵琶湖研究の拠点となる琵琶湖環境科学研究センター開設準備室の室長として、その設立に尽力されるなど、滋賀県の水環境行政の推進に多大な功績が認められる。
徳島県	ミウザイグンカミヤマチョウヒロノショウガッコウ 名西郡神山町広野小学校		<ul style="list-style-type: none"> ・学校近くを流れる「鮎喰川」で、毎年夏に全児童が参加して川の水質や水生生物を調査するなど、地域の水環境保全・普及啓発に貢献をしている。
徳島県	ナカチョウウツキタガワショウガッコウ 那賀町立北川小学校		<ul style="list-style-type: none"> ・学校近くを流れる「久井谷川」で、毎年夏に全児童が参加して川の水質や水生生物を調査するなど、地域の水環境保全・普及啓発に貢献をしている。
香川県		オオニシ テツヤ 大西 徹野	<ul style="list-style-type: none"> ・県が「残したい香川の水環境50選」に認定している野口ダム周辺及び河川で、地域住民と一緒に清掃活動を行った。また、長年にわたり地域住民のリーダーとして積極的に活動に取り組み、水環境保全に貢献した。
香川県	タノノジチカイ 田野々自治会		<ul style="list-style-type: none"> ・県が「残したい香川の水環境50選」に認定している豊稔池及び周辺河川の清掃活動を行った。また、月に2回程度不法投棄物の環境パトロールを実施し、環境の美化に努めることで水環境保全に貢献した。

推薦者	団 体	個 人	主 な 功 績
愛媛県		ミナクチ ササミ 水口 定臣	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和55年の愛媛県庁入庁以来、35年間一貫して環境行政に従事し、特に水環境行政に長年携わり、水質総量削減計画、瀬戸内海の環境の保全に関する愛媛県計画、広見川をきれいにする計画等の策定や生活排水対策重点地域の指定等、愛媛県の水質規制や生活排水対策の礎を築いた。 ・また、ダイオキシン類の測定体制の立ち上げ等の業務に尽力するとともに、環境省の環境技術実証モデル事業検討会の委員や(独)製品評価技術基盤機構のダイオキシン類測定に係る特定計量証明事業者認定制度の審査員を務める等、県民の健康の保護及び生活環境の保全に努めてきた功績は顕著である。 ・なお、退職後は、一般社団法人えひめ産業廃棄物協会において、引き続き愛媛県の水環境保全に尽力している。
佐賀県	サガケンキョウドクミアイジョセイレンラクカイ 佐賀県協同組合女性連絡会		<ul style="list-style-type: none"> ・平成2年発足以降、毎年水環境保全に関する講演会等(「水と環境を守るう協同組合婦人のつどい」)を開催し、水環境保全の啓発に長年貢献している。 ・また、団体内で例年環境調査を実施しており、河川のCODの実態を継続的に把握するとともに、調査活動を通じることで参加者へ水環境保全に関する情報の普及・啓発を行っている。
熊本県		タナカ ノブヒロ 田中 伸廣	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和48年に化学職として熊本県に採用されて以降、一貫して環境保全業務に従事し、特に地下水質及び地下水量の保全に大きく貢献した。 (1)地下水質保全活動(延べ17年) 「熊本県地下水保全条例」(平成2年10月制定)の制定業務では、全国に先駆けてトリクロロエチレン等の有害物質の排水規制及び地下水汚染防止を条例で規定し、清純で豊かな熊本県の地下水質保全に貢献した。さらに、県職員退職後も再任用職員として地下水保全業務に従事し、特に平成24年3月の「熊本県地下水保全条例」の改正においては、一定規模以上の地下水の採取に対する届出又は許可を規定し、地下水量の保全に貢献した。 (2)水環境保全活動(延べ20年6月) 「昭和の名水百選」及び「平成の名水百選」の両方の選定業務に従事し、全国最多となる合計8ヶ所の選定に貢献した。 近年では、熊本県地下水保全専門指導員(非常勤職員)として勤務し、後進の指導を務めるとともに、学会やシンポジウム等における講演活動や、水資源と水環境の保全についての啓発イベント活動を行った。
大分県	シバキタガワ アイ カイ 柴北川を愛する会		<ul style="list-style-type: none"> ・「柴北川を愛する会」は、豊後大野市犬飼町長谷地区の地域活性化を目指し平成18年に設立され、大野川の支流の柴北川を拠点に、河川清掃や水質調査、植栽活動などの環境美化活動を行い、地域の環境保全活動に貢献している。 ・また、夏休み期間中には大分市内の小学生との交流キャンプを開催するなど、児童の親水意識の醸成に貢献している。
相模原市	サガミガワ アイ カイ 相模川を愛する会		<ul style="list-style-type: none"> ・河川美化意識の高揚を図ることを目的に、相模川沿岸の5地区9会場において、相模川河川敷の一斉清掃を行う「相模川クリーン作戦」を実施している。市民、企業、相模川沿岸の自治会や各種団体などに参加を呼びかけ、多くの参加者を得ている。事業を開始した昭和58年からの数年間は1回の開催で約6トンあったゴミの回収量が、近年では約2トンと徐々に減少しており、事業の効果が現れている。 ・1回あたりの参加者数:概ね1,000人~1,500人。
新潟市	ニイガタシリゾアカツカチュウガッコウ 新潟市立赤塚中学校		<ul style="list-style-type: none"> ・同校は、ラムサール条約湿地である佐潟に隣接し、平成2年より、年間を通して佐潟クリーン活動として、ヨシ刈りや泥上げ、ゴミ拾い等を実施し、地域とともに潟の環境保全に積極的に貢献している。 ・また、自然環境豊かな佐潟を広く市民に知ってもらうために毎年、夏に開催している佐潟まつりにも参加し、地域の宝として賢明な利用にも関わっている。 ・新潟市は、コハクチョウの越冬数全国一の都市であり、佐潟だけでも年間4千羽が越冬している。この越冬地にどのくらいのハクチョウが飛来するのか、学校として長期間に渡る飛来数調査を行い、野生生物の個体群動態の把握に貢献している。

団体 11

個人 8

合計 19